

まちなか博物館設置による中心市街地への影響

前橋工科大学 学生会員 ○松永賢治
前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

中心市街地は地域社会の核であり、これまで様々な面で地方都市の重要な役割を担ってきた。しかし、近年のモータリゼーションの進展や道路交通網の整備に伴う消費者の生活圏の広域化、大型複合商業施設の郊外への出店、中心市街地へのアクセス環境の悪化などの問題を背景に、中心市街地においては、歩行者の減少や商店街における空き店舗の増加をはじめとする商業構造の空洞化などの様々な問題が起きている。しかし、中心市街地付近には都市機能が集中しており、今後人口が減少し超高齢社会へと移行する中で、都市のコンパクト化という点からも中心市街地活性化が急務の課題となっている。

本研究で事例として扱う前橋市は群馬県庁所在地であり人口約 34 万人の中核市である。前橋市中心市街地には平成 21 年の調査で店舗や事業所が 746 箇所あり、その内、空き店舗は約 26% の 196 箇所であり他の地方都市と同様な問題を抱えている。さらに、路線価が全国の都道府県庁所在地の中で最安値を記録するなど事態は深刻である。前橋市のこれまでの活性化対策としては、駐車場の整備や商品券・駐車券の発行といったハード面の対策が主流を占めていたが、今日では事業者の意識改革やコミュニティの再生といったソフト面の対策の重要性も指摘されている。

2. 研究目的

中心市街地を活性化させる方法として、「まちなかまると博物館」構想がある（本研究において今年度実施中）。これは直接的に商業機能の強化を図るものではなく、前橋市の歴史や文化といった地域資源を再発見し事業者自身が主体となってまちづくりを行うことで交流や一体感、継続性を生み出し、中心市街地の魅力の向上を図るとともに来街者の増加と回遊行動の促進を図るプロジェクトである。「まちなかまると博物館」構想の具体的な活動は、昔の広



図-1 前橋市中心市街地(枠内)

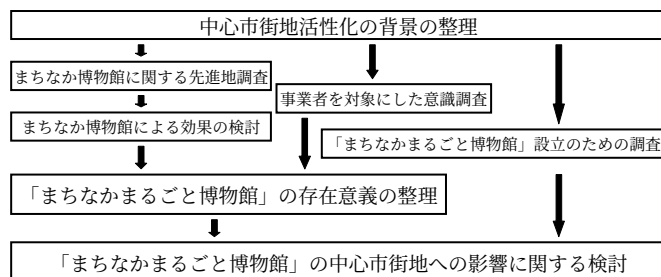


図-2 研究の流れ

告・写真・道具・生活用品（以下「お宝」とする）などを店頭に飾ることや現代の人が昔の文化や遊びを体験することがある。また、地域コミュニティの再生を図ることにより安心・安全なまちづくりに寄与することも期待でき、将来的には商業構造の空洞化の解消、まちなか観光事業への展開も可能である。

本研究では事業者の主体的な取り組みによるコミュニティの形成が中心市街地活性化につながるという前提で、「まちなかまると博物館」設立のための調査をすると共に「まちなかまると博物館」が中心市街地に与える影響について検討することを目的とする。

そこで、本研究では前橋市中心市街地において、商業・業務施設の集積度が高い地域である重点地区

キーワード 中心市街地活性化、コミュニティ、継続性、連携

連絡先 〒371-0816 前橋市上佐鳥町 460 番地 1 前橋工科大学 地域交通計画研究室 TEL027-265-7362（直通）

〔国道 17 号、国道 50 号、広瀬川に囲まれた面積約 25ha の市街地〕を中心市街地（まちなか）として検討する（図-1）。

3. 研究方法

本研究では以下の 3 つの調査を行った。

(1) まちなか博物館に関する先進地調査

「まちなかまると博物館」を実施するにあたっての留意点を調査することを目的とし、愛知県新城市で実施されている「新城まちなか博物館」を訪れ運営主体である市役所とまちなか博物館事業者を対象に実態を把握すべくヒアリング調査を行った。

(2) 事業者を対象にした意識調査

各店舗の実態と「まちなかまると博物館」構想に関する考えを把握するため、前橋市中心商店街協同組合に加盟している店舗（100 店舗）を対象にした意識調査のアンケートを行った。調査の概要は表-1 に示す通りである。

(3) 「まちなかまると博物館」に関する調査

前橋市の中心市街地内で営業している店舗や事業所を対象として「まちなかまると博物館」事業者から成る「お宝探検隊」を結成し、「まちなかまると博物館」設立のための調査を実施した。調査内容は各通りの店舗を巡り、店舗の歴史とそれに係わる「お宝」発掘、及び具体的な展示方法に関する事項とした。

4. 研究結果

(1) まちなか博物館に関する先進地調査

「新城まちなか博物館」は平成 7 年度から行っているもので、生涯学習の衰退を受け新城の街で生まれて育てられてきた文化、暮らしの姿をそのまま保存・伝承し、次の時代に引き継いでいこうとするものであり、平成 20 年度までに 17 の文化資源が登録されている（写真-1）。

① 市役所への調査結果

「新城まちなか博物館」開設当初は地元新聞社やテレビで取り上げられるなど活気づいていたが、平成 17 年の旧新城市と南設楽郡鳳来町、作手村との合併以降はあまり力の入れられていない取り組みであった。そのことから継続性の問題が考えられ市の方針などの依存性のない活動が必要である。また広報活動についてはホームページのみとなっておりそれについても検討が必要である。

表-1 アンケート調査の概要

調査名	「まちなかまると博物館」構想に関する調査
調査対象	前橋市中心商店街協同組合に加盟している店舗
配布期間	10月中旬
回収締め切り	11月8日
配布方法	直接配布、郵送回収
回収票数/配布票数	51/100
回収率	51%
調査項目	・店舗の概要 ・現在中心商店街で実施している各施策への参加状況 ・前橋市中心市街地について ・事業者の商店街組合の活動状況とまちづくりへの係わり ・「まちなかまると博物館」について



写真-1 「新城まちなか博物館」の一例

② 事業者への調査結果

事業者から「周りが何を行っているのかわからない」、「年に 1 回くらいは集まる機会がほしい」といった連携に関する意見があり、事業者同士が交流を図る機会が設けられてない問題が上がった。また見学は予約制のところがあり突然の訪問に対応しきれない問題も上がっている。

以上から「まちなかまると博物館」では行政はアドバイザーとして活動することで依存性を減少させ、あくまでも事業者が主体となって取り組むことが必要である。その結果、自然とコミュニティが生まれ継続性のある活動や連携の向上を図ることが期待でき、それらの諸問題に対する解決策になると考えられる。

(2) 事業者を対象にした意識調査

アンケート調査項目の中で「商店街組合の活動状況」と「まちづくりへの係わり」について表-2、表-3 に示した評価項目に対して、[1. 不十分である（思わない）、2. やや不十分である（あまり思わない）、3. 普通（何とも言えない）、4. やや十分である（やや思う）、5. 十分である（思う）] の 5 段階評価でそれぞれ回答してもらった。その結果を基に、どのような要因が影響しているか調べるため因子分析を適用しそれぞれ 4 つの因子を抽出した。その結果、商

表-2 「商店街組合活動」の因子分析結果

評価項目	因子№ 1	因子№ 2	因子№ 3	因子№ 4
組合員間のまとまりはいいかですか	0.81	0.25	0.07	0.25
商店街活動のための活動拠点はいいかですか	0.72	0.24	0.07	0.12
会員間の連携や交流はいいかですか	0.69	0.33	0.33	0.10
組合員間の問題意識の共有状況はいいかですか	0.62	0.09	0.19	-0.03
信頼できるリーダーの存在はいいかですか	0.51	0.41	0.03	0.32
組合員の役割分担の明確性はいいかですか	0.23	0.73	0.08	0.24
商店街組合の財政基盤はいいかですか	0.16	0.63	0.48	-0.02
活動内容の組合員への周知状況はいいかですか	0.36	0.62	0.19	0.24
商店街組織の運営は円滑に行われていますか	0.47	0.54	0.19	0.22
行政やNPO等との連携はいいかですか	0.08	0.09	0.74	0.17
商工会議所との連携はいいかですか	0.23	0.24	0.69	-0.20
安全で清潔なまちづくりへの対応はいいかですか	0.01	0.14	-0.08	0.78
お祭りや各種イベントの開催回数や内容はいいかですか	0.25	0.34	0.08	0.52
中心市街地の伝統行事や文化活動の実施状況はいいかですか	0.30	0.07	0.41	0.48
二乗和	2.93	2.21	1.66	1.54
寄与率	20.91%	15.79%	11.87%	10.98%
累積寄与率	20.91%	36.70%	48.58%	59.56%
因子名	内部の連携	運営状況	外部との連携	まちづくり

表-3 「まちづくりへの係わり」の因子分析結果

評価項目	因子№ 1	因子№ 2	因子№ 3	因子№ 4
商店街組合の会議などへは積極的に参加している方だと思いますか	0.87	0.04	0.15	0.03
自分は何事においても協力的だと思いますか	0.82	0.28	-0.02	0.02
まちづくりに積極的に参加している方だと思いますか	0.80	0.04	0.35	0.28
商店街のイベントなどへは積極的に参加している方だと思いますか	0.80	0.24	0.06	-0.06
商店街内の商業主同士との交流は多い方だと思いますか	0.22	0.67	0.13	0.41
近隣の商店主との交流は多いほうだと思いますか	0.28	0.66	0.35	0.26
市民団体やNPO等との交流は多い方だと思いますか	0.13	0.18	0.78	0.14
商店街組合の役員との交流は多い方だと思いますか	0.29	0.52	0.57	0.37
自分は何事においても寛容だと思いますか	0.02	0.15	0.06	0.64
商店街内には信頼できる人は多い方だと思いますか	0.00	0.31	0.30	0.57
二乗和	2.93	1.45	1.31	1.20
寄与率	29.34%	14.47%	13.10%	12.01%
累積寄与率	29.34%	43.81%	56.91%	68.92%
因子名	規範	内部の交流	外部との交流	信頼関係

店街組合の活動状況に対する因子1は「内部の連携」、因子2は「運営状況」、因子3は「外部との連携」、因子4は「まちづくり」とした。また、まちづくりへの係わりに対する因子1は「規範」、因子2は「内部の交流」、因子3は「外部との交流」、因子4は「信頼関係」とした。

次に、求められた因子がそれぞれの総合評価にどのような影響を与えるのかを調べるために重回帰分析を行った。重回帰分析では因子分析から得られた「商店街組合の活動状況」と「まちづくりへの係わり」のそれぞれの因子得点を説明変数とし、目的変数が「商店街組合活動の場合」は「商店街組合の活動状況の総合評価」、「まちづくりへの係わり」の場合は「まちづくりへの係わりの総合評価」とした(表-4、表-5)。その結果、標準偏回帰係数の値より「商店街協同組合の活動状況」については「内部の連携」、「運営状況」、「まちづくり」の影響が大きく、「まちづくりへの係わり」については「規範」、「内部の連携」、「信頼関係」の影響が大きいことが確認された。因子「外部との連携」と「外部との交流」については他の因子と比べると低い判定結果となったが、事業者の意識の中で必要性が無いのではなく優先順位

表-4 「商店街組合活動」の重回帰分析結果

目的変数	説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	T 値	判 定
商店街組合の活動状況を総合するといかがですか	内部の連携	0.32	0.33	4.01	**
	運営状況	0.67	0.66	7.94	**
	外部との連携	-0.03	-0.03	-0.36	
	まちづくり	0.25	0.25	2.98	**
F 値		26.22			
修正済決定係数		0.67			

**：1%有意

表-5 「まちづくりへの係わり」の重回帰分析結果

目的変数	説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	T 値	判 定
あなた自身のまちづくりへの係わりを総合するといかがですか	規範	0.46	0.42	5.25	**
	内部との交流	0.55	0.44	5.34	**
	外部との交流	0.25	0.20	2.43	*
	信頼関係	0.51	0.38	4.62	**
F 値		27.37			
修正済決定係数		0.68			

**：1%有意*：5%有意

表-6 「まちなかまると博物館」の因子分析結果

評価項目	因子№ 1	因子№ 2
市民が中心市街地の歴史や文化を再発見する効果は	0.71	0.27
中心市街地の新たな活性化対策としての効果は	0.65	0.55
中心市街地の新たな観光対策としての効果は	0.65	0.60
商店主のまちづくりに対する意識向上としての効果は	0.60	0.50
商店街と行政・市民団体などとの連携強化のための効果は	0.58	0.34
中心市街地への来街者増加としての効果は	0.40	0.80
商店の売り上げ増加としての効果は	0.34	0.74
二乗和	2.33	2.29
寄与率	33.22%	32.76%
累積寄与率	33.22%	65.97%
因子名	新たな取り組み	来街者の増加

表-7 「まちなかまると博物館」の重回帰分析結果

目的変数	説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	T 値	判 定
「まちなかまると博物館」の設置は中心市街地の活性化に効果はあると思いますか	来街者の増加	0.79	0.60	9.50	**
	活性化対策	0.65	0.51	8.04	**
F 値		118.37			
修正済決定係数		0.83			

**：1%有意

が低いためであることが考えられる。

また、アンケートの調査項目の「まちなかまると博物館」について表-6 に示した複数の評価項目に対して、[1. 効果はない、2. あまり効果はない、3. 何ともいえない 4. 多少の効果はある、5. 効果はある]の5段階評価で回答してもらい、因子分析を行った(表-6)。因子1を「新たな取り組み」、因子2を「来街者の増加」と名付けこれらの因子を説明変数として、目的変数『「まちなかまると博物館」の設置による中心市街地への効果』について重回帰分析を行った(表-7)。その結果、中心市街地へは上記の2つの因子それぞれに効果があると考えられる。

次に、「商店街組合活動」、「まちづくりへの係わり」、「まちなかまると博物館」間の関係を明らかにする目的で共分散分析構造を行った。共分散構造分析を行うために因子分析で抽出した因子を用いてパス図を作成した(図-3)。パス図では評価項目を観測変数として置き、その内側に因子分析により抽出した因子を潜在変数としてそれぞれ置き、それら因子が因子負荷量の高い評価項目に対して影響を与え

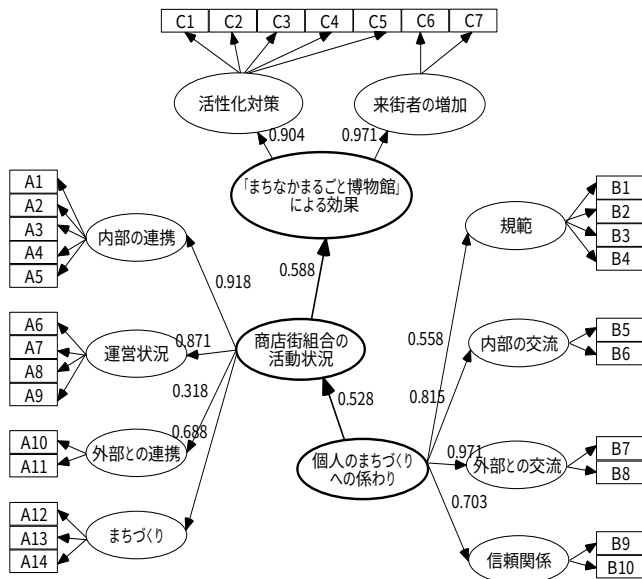


図-3 パス図

ているものとした。それぞれの総合評価も潜在変数として置きそれが各因子に影響を与えているものとし、「個人のまちづくりへの係わりの総合評価」が「商店街組合の活動状況の総合評価」に影響を与え、「商店街組合の活動状況の総合評価」が『「まちなかまると博物館」による効果』に影響を与えているものとした。影響を表すパス係数(標準化係数)は図-3中に示してある通りである。この結果から、「個人のまちづくりへの係わり」が「商店街組合の活動状況」に対し影響を与え、「商店街組合の活動状況」が『「まちなかまると博物館」による効果』に対して影響を与えていることが分かる。

(3)「まちなかまると博物館」に関する調査

中心市街地の各通りの「まちなかまると博物館」に参加意思のある店舗や事業所を巡り、「お宝」の発掘や店舗と「お宝」の歴史、「お宝」の具体的な展示方法について調査を実施し、現在までに22店舗の調査を終えた。発掘された「お宝」は昔のラジオや電話(電機屋)、計量道具(米屋)、家紋帳(呉服屋)、手縫いミシン(洋服屋)等である。展示方法は、店内にブースを作る店舗(11店舗)や、現在も実際に使用しておりその様子を見てもらう店舗(5店舗)、未定(6店舗)であった。また「お宝」の他に、店舗や通りの昔の写真やその店舗と「お宝」の歴史等を掲載した資料、「まちなかまると博物館」と記した看板を作成して軒先に飾ることも決まった。

5. まとめ

本研究では事業者が主体的に取り組む「まちなかまると博物館」構想による中心市街地への影響の検討を行うものであり、得られた主な結論は以下の通りである。

(1) まちなか博物館の主な問題点は、先進地調査により「継続性」と「連携」であるということが分かった。その為、「まちなかまると博物館」では事業者が主体的に活動することで、依存性が小さくコミュニティも図れるものとした。

(2) 事業者の実態として、重回帰分析の結果から中心市街地に関する「商店街組合の活動状況」や「まちづくりへの係わり」を向上させる要素に共通しているものとして「連携」や「交流」が挙げられている。そして共分散構造分析の結果から、「まちづくりへの係わり」や「商店街組合の活動状況」が向上すると、「まちなかまると博物館」による効果が向上することが分かった。

(3) 「まちなかまると博物館」の効果は、事業者が主体的に取り組むことにより「継続性」や「連携」が向上することも期待できる。また、直接的な効果としては新たな活性化対策と来街者の増加としての効果が期待されている。

(4) 「まちなかまると博物館」はまちなか博物館の問題点を解決し、事業者に不足している「連携」や「交流」の要素を満足させるものであり、来街者の増加といった効果が期待できる事業である。

6. 今後の課題

共分散構造分析の結果の『個人のまちづくりへの係わりが商店街組合の活動状況に与える影響』と『商店街組合の活動状況が「まちなかまると博物館」に与える影響』をいかにして高めるのか検討する必要がある。また「まちなかまると博物館」の設立後に実地調査を行い、期待されている「来街者の増加」や「新たな活性化対策」の効果があったのか、将来的に空き店舗の解消やまちなか観光事業として成り立つのか等改めて検討する必要がある。

参考文献

- 1) 菅民郎 (2006), 「らくらく図解統計分析教室」, オーム社
- 2) 前橋市 (2010), 「前橋市中心市街地活性化基本計画(案)」, 群馬県前橋市